



## 筑波大学新聞 第315号

雑誌名	筑波大学新聞
号	315
発行年	2014-07-14
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2241/00123390">http://hdl.handle.net/2241/00123390</a>

# 筑波大学新聞

第315号

編集責任  
筑波大学新聞  
編集代表  
福原直樹  
TEL: 029(853)2040・6699  
E-mail: shinbun@un.tsukuba.ac.jp  
月刊

発行所  
筑波大学  
茨城県つくば市  
天王台1-1-1

## 紙面から

山下吏良助教	異色の経歴生かし心のケア
吹奏楽団	壮大な世界観を音で演出
弓道	今林4射皆中決める
男子バスケットボール	新人戦優勝など躍進
社会貢献プロジェクト	野菜の育て方を指導
学生宿舎新設	日本人と留学生同居
11	10
9	8
3	2

ミニ特集	5
第40回宿舍祭	
熱気にあふれた2日間	
特集	6,7
起業特集	
つくばをシリコンバレーに	

## 「パワープレート」使用で

正田純一教授(医学医療系)らのグループの研究で、乗るだけでも運動効果を得られるトレーニング機器「パワープレート」を使うと、「脂肪肝」の病状が改善することが分かった。脂肪肝の患者は日本で約2000万人いるが、この方法を使えば、運動の苦手な人や足腰の弱い高齢者でも週2回の使用で脂肪肝を予防・治療できると期待されている。(井口彩二社会学類2年、写真も)

## 正田教授らの研究グループ

# 乗るだけで「脂肪肝」改善



正田純一教授

## 週2回の使用でも効果

「治療法の確立に一步」  
脂肪肝は肝臓に脂肪が過剰に蓄積した状態で、過食や運動不足などが原因の生活習慣病。肥満の人の約3割が該当する。通常、治療は食事療法と運動療法を組み合わせで行うが、運動を敬遠する人が多く、悪化するケースもあった。  
今回の研究で正田教授らのグループは、床部分が震動するトレーニング機器「パワープレート」に注目し、脂肪肝の患者約30人に使用させた。すると、糖質の代謝に重要な役割を果たすホルモン「インスリン」の働きがほとんどの患者で活発化。その結果、3カ月間は食事療法と運動療法を組

の余分な脂肪が大きく減少し、脂肪肝が改善する効果が見られた。  
通常、体内の脂肪を燃焼させるためには、ダンベルを持ち上げるなど酸素を消費しないで筋力を使う「無酸素運動」ではなく、長時間のジョギングなどの「有酸素運動」が有効とされている。パワープレートは体を高速に振動させる無酸素運動だが、研究の結果、脂肪肝の改善に十分な効果があることが分かった。  
正田教授によると、成人の場合、パワープレート



パワープレートを使う様子

を週2回、各約20分間使うだけで病状を改善できる。このため、運動が苦手な人だけでなく足腰の弱い高齢者の肥満対策としても注目されている。  
正田教授は、「パワープレートは誰でも気軽に使え、治療への意欲向上につながる。研究を継続して脂肪肝に効果のある方法を確立していきたい」と語った。

## 筑波大学クレジットカード事業

# 来年度から導入へ 利用額の一部を大学に寄付

筑波大学がクレジットカード会社と提携し、来年度から在学生や卒業生、教職員を対象としたクレジットカード事業を開始することが分かった。クレジットカードの仮名称は「筑波大学校友会カード(校友会カード)」。大学内や大学周辺の店で校友会カードを利用する学生は、利用限度額を原則10万円(保護者の承諾があれば30万円まで)とし、未成年

の導入には保護者の承諾が必要。一般カードは入会費・年会費がかかるのに対し、学生カードは無料という。利用額の一部は筑波大学基金に寄付され、筑波大独自の奨学金制度「つくばスカラーシップ」や、学園祭・宿舍祭の運営費用に充てられるため、卒業生は間接的に後輩の大学生活を援助することができる。  
現在、提携するクレジットカード会社の選定を進めており、7月下旬には決定する予定。その後、来年度からの導入に向け、利用特典の企画や名称・デザインは早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学など、全国で行われている。  
古山室長は「クレジットカード導入が成功するかどうかは加入者数にかかっている。学生や関係者への広報を積極的に行うが、より多くの人にカードを作ってもらいたい」と話した。

## 街灯協議会 8月にも発足

## 筑波大生の協力も

つくば市で街灯が不防犯上危険な場所が多い問題の解決に向け、同市が設立を表明していた「明るいまつくば協議会(仮称)」が8月にも正式発足することが分かった。同市によると協議会運営には、路上わいせつなどの被害が多い筑波大学生に協力を求める可能性もあるという。同市は発足に向け、街灯がない危険な場所の夜間調査や、専門家からの意見聴取なども進めているという。発足後の成果が期待される。(平嶋健人社会学類3年)

同協議会には、筑波大や一各研究機関などが参加を予定。入り組むため、街灯・防犯灯の建設が進まない問題の



つくばに街灯を

解消を目指す。1月に市原健一つくば市長が本紙の質問状に対し、設立を表明していた。  
同市道路課への取材によると3月下旬、設立に向けた第1回の検討会が開かれ、茨城県や市内の研究機関・大学の職員ら30人が参

加。いったんは5月末までに発足する方針が固まった。だが危険な場所の調査のほか、協議会の運営方法や活動内容の決定、協議会のメンバーの選定……など1時間ばかり、発足は8-9月になりそうだという。  
その後、検討会は開かれていないが、同課は現在協議会の発足に向け着実に準備を続けている」と説明。協議会の発足後は「つくば市の担当課や警察署、多く

の研究機関が所属する筑波研究学園都市交流協議会と協力して、まず(街灯問題のほかに協議会の運営方法や活動内容の決定、協議会のメンバーの選定……など1時間ばかり、発足は8-9月になりそうだという。  
その後、検討会は開かれていないが、同課は現在協議会の発足に向け着実に準備を続けている」と説明。協議会の発足後は「つくば市の担当課や警察署、多く



7月4-6日の3日間で開催された「つくばクラフトビアフェスト2014」。来場客はビールを片手に仲間と語り、筑波大学アイドル研究会のパフォーマンスに大いに盛り上がった。(齋藤優斗社会学類1年、写真・関根岳社会学類3年)

「ゴジラ」が注目されている。7月にはハリウッド映画「GODZILLA」が公開されるほか、生誕60周年を記念した展覧会が開かれるなど、まさにブームと言っている現象だ。初登場した1954年の映画では、水爆実験で安住の地を追われ東京に襲来。そこでは放射能を帯びた熱線を吐きながら都市を破壊し、人間社会への怒りをぶつけた。「GODZILLA」でも水爆が登場する。ギャレス・エドワーズ監督は「54年のゴジラとつながるようにしたかった」と語っているが、劇中で水爆実験や放射能汚染が現代風に描かれる。ゴジラ映画で、繰り返す「水爆」が描かれる背景には、54年に起こった第五福竜丸事件がある。西太平洋ヒキミ環礁で実施された水爆実験に日本の漁船が巻き込まれ、船員23人全員が被ばくした事件だ。ゴジラの誕生には、当時の反原水爆運動が反映されている。社会学者・好井裕明は著作の中で「ゴジラには反原水爆イメージが息づいている」と指摘する。54年の映画ラストシーン、ゴジラは新型兵器で殺されてしまう。映画は環境汚染を繰り返す人間の身勝手さを強烈に批判すると同時に、原水爆の恐怖を伝えた。第五福竜丸事件から今年で60年。来年は広島・長崎への原爆投下から70年だ。映画をきっかけに、改めて過去を振り返り、未来を考えたい。

## 筑波おし

映画「GODZILLA」が公開されるほか、生誕60周年を記念した展覧会が開かれるなど、まさにブームと言っている現象だ。初登場した1954年の映画では、水爆実験で安住の地を追われ東京に襲来。そこでは放射能を帯びた熱線を吐きながら都市を破壊し、人間社会への怒りをぶつけた。「GODZILLA」でも水爆が登場する。ギャレス・エドワーズ監督は「54年のゴジラとつながるようにしたかった」と語っているが、劇中で水爆実験や放射能汚染が現代風に描かれる。ゴジラ映画で、繰り返す「水爆」が描かれる背景には、54年に起こった第五福竜丸事件がある。西太平洋ヒキミ環礁で実施された水爆実験に日本の漁船が巻き込まれ、船員23人全員が被ばくした事件だ。ゴジラの誕生には、当時の反原水爆運動が反映されている。社会学者・好井裕明は著作の中で「ゴジラには反原水爆イメージが息づいている」と指摘する。54年の映画ラストシーン、ゴジラは新型兵器で殺されてしまう。映画は環境汚染を繰り返す人間の身勝手さを強烈に批判すると同時に、原水爆の恐怖を伝えた。第五福竜丸事件から今年で60年。来年は広島・長崎への原爆投下から70年だ。映画をきっかけに、改めて過去を振り返り、未来を考えたい。





## 筑波大では被災地支援も

テレビ大阪報道記者、NHKキャスター、フリーアナウンサー、海上自衛隊員を経て筑波大学の教員となった山下吏良助教(医学医療系)は、その異色の経歴を基に、「自衛隊員や警察官など」災害時に救援活動を行う人の心のケア」などの支援を行っている。山下助教のこれまでの経歴と、現在の活動を追った。

(新田明夏Ⅱ社会学類2年、写真も)

### ■異色の経歴

出身は京都市。同志社大学で心理学を専攻、1995年にテレビ大阪に入社し、報道記者となった。入社後は、同年1月に発生した阪神・淡路大震災



異色の経歴を持つ山下助教

## 研究 探求

2003年に京都ノートルダム女子大学大学院に入学し、05年に臨床心理士の資格を取得した。

### ■自衛隊へ

臨床心理士として仕事を

する中で、海上自衛隊が募

集している臨床心理士の求

人を見つけた。1年間で

100人以上の隊員がさま

ざまなストレスを苦に自殺

していることを知り、「自

衛隊員には精神的なケアが

必要だ」と痛感。過酷な環

境下で働く隊員の力になり

たいと考え、07年に海上自

衛隊に入隊した。

海上自衛隊では隊員の心

のケアに尽力した。例えば、

護衛艦の衝突事故やヘリコ

プター墜落事故などが起

ると、隊員が精神的な負担

を抱える場合がある。海上

自衛隊ではそのような隊員

のカウンセリングなどを行

い、ストレスを減らす方法

を考える手助けをした。

また隊員に対して、心の

健康に対する講習を実施し

た。講習では、海上自衛隊

で自殺した隊員の実例を交

えながら、自分や身近な隊

員の心の不調に気づいた時

の対処方法などを伝えた。

東日本大震災の発生後、

行方不明者の捜索や遺体収

容などの任務を終え、基地

に戻ってきた隊員の心のケ

アを行っている。

■筑波大学へ

自衛官時代の上官で、災

害精神支援学が専門の高橋

祥友教授(医学医療系)に

誘われ、13年に筑波大の助

教となった。学生向けに、

芸術を通して東日本大震災

の復興支援を行う「筑波大

学創造的復興プロジェクト」

で、災害時の精神的なケ

アに関する講義を行って

## メガネ型装置「エージェンシーグラス」

### レンズ部分に目の形を映す

### 感情表現の補助に期待

外から見るメガネのレンズ部分に人の目の形が映し出される装置「エージェンシーグラス」を大澤博隆助教(シス情系)が開発した。表情をうまく作ることができない病気の患者や、盲目の人の感情表現を補助するなど、さまざまな用途が期待されている。

同グラスは普通の眼鏡と大きさがほぼ同じ。外部に向けた映像の目はまばたきをしたり、頭の向き



「エージェンシーグラス」をかける大澤助教

## シンポジウム「西アジア文明学の創出1」

### 常木教授が基調講演

### 古代西アジアの重要性語る

国際シンポジウム「西アジア文明学の創出1」が6月28-29日に、池袋サンシャインシティ文化会館(東京都豊島区)で



西アジア文明について語る常木教授

## 東京五輪に向け開設

## IOC関係者の講義も

### 「つくば国際スポーツアカデミー」

筑波大学は2020年の東京五輪・パラリンピックに向け、大学院修士課程つ

くば国際スポーツアカデ

ミーを来年10月から開設

する。スポーツイベントの

運営や、国際オリンピック

委員会(IOC)の幹部と

して活躍する人材の育成を

目指す。

講義ではイベントの経



開発した木藤さん(左)と吉田さん

## 「デジタルユースアワード」アプリ部門

## 木藤さんと吉田さんがグランプリ

## スポーツのプレーを簡単に分析

学生が開発したタブレット・スマホアプリの完成度アワード」の決勝大会が4月12日にKDDIホール

た、映像に絵や文字を書き込む機能も搭載されている。この機能を使うことで、例えば動画の中で選手が走るべきだった方向を矢印の絵などで的確に伝えることができるなど、スポーツ選手・監督が手軽に試合中の動きを分析できる。

従来、スポーツ分析用のアプリは、十数万円以上したが、「Spot」は無料配信を予定しているため、多くのアマチュア選手やその指導者がアプリを利用できるようになることが期待される。

木藤さんは「使用方法が簡単で、使いやすいアプリを目指し開発に取り組んでいる。スポーツに携わる全てのの人に使ってほしい」と話した。

(森脇慎、写真も)

に重要だ」と語った。

全講演の終了後、「現代文明の基層としての古代西アジア文明」というテーマでパネルディスカッションが行われた。オリエント考

古学を専門とするトロント大学のティモシー・ハリン

ン教授をコメントーターに招き、同シンポジウムの講演者が登壇。西アジアの豊かな地質・自然環境が、文明の発展につながったことなどについて議論した。

(森レイ、写真も)

■計報

山澤 新吾氏(やまさわ・しんご)筑波大学名誉教授。6月14日、心不全のため死去、91歳。

1975年筑波大農林工学系教授。86年筑波大退職、名誉教授。2000年勲三等旭日中綬章受賞。



## ソロパートでも観客を魅了

筑波大学吹奏楽団の第71回定期演奏会が、6月14日にノバホール(つくば市吾妻)で開かれ、県内外から600人以上の観客が訪れた。

クラシックが中心の第一部は、A・リード作曲、序曲「春の狩犬」やJ・スバーニョラ作曲「エスカパイド」など、軽快なスタックが軸の選曲特にエスカパイドは現代音楽クラシックファンクの3要素が複雑に絡み合う、一風変わった幻想曲。指揮、松雪俊(エンス3年)は「指揮者泣かせの曲だ」と語ったが、目まぐるしく移り変わる拍子や不安定に弾む裏拍のスタックを引き出し、見事にバンドを牽引した。(原啓一郎II社会学類4年、写真も。12面に関連写真)



上II「トリトン」を指揮する佐藤(右)、下IIサクソスのソロを披露する黒崎

## 絶対音感



第一部の目玉は長生淳作曲「トリトン」。波のうねりや静かな海原をイメージした20分にもわたる楽曲だ。ホルンとトロンボーン

の主題から始まる第一楽章は荒れ狂う海を、トランペットをオフステージに置いた第二楽章は波一つ無い大海原を描く。そして第三楽章では8分の12拍子とい



「うねりにうねる海を船がどんどん進んでいくんだ。指揮、佐藤拓人(地球3年)が練習中に団員へ何度もかけた言葉だ。「僕たちは最後まで挑戦しなければならぬ。最後の一小

吹奏楽団の演奏からはパート同士のかけ合いの中に、各奏者の「音楽への想い」が伝わる。公演を牽引する3年生、団の中心となる2年生、そして初公演の1年生。それぞれの想いが音にこもっていた。半年後の定期演奏会では、彼らの更なる成長が期待される。

◇

筑波大学の音楽系団体の公演会を取材し、その様子や奏者・演者の声をお伝えします。

## 日本画専攻の学生らが制作

## 桐の板に植物を描く

瀧仙寺本堂天井画展

芸術専門学群日本画研究室が主催する「瀧仙寺本堂天井画展」が6月24―30日に、総合交流会館多目的ホールで開催された。筑波大学の学生や修士約50人が72点を出品し、一日で約80人が会場を訪れた。同展は、長野県小県郡



展示に見入る来場者

と話した。太田教授は「多くの人が関わって制作する喜びを感じてほしい」と振り返った。

来場者は「知っている花が多くて興味がある。この日本画が寺の天井画になるのは神秘的だ」と話した。(廣岡里穂、写真も)

## 訂正とおわび

314号5面の「交差する表現」構成専攻の現在の記事で、國安孝昌教授芸術系の作品名を「森の竜神」と記載しましたが、正しくは「筑波嶺の竜神」でした。おわびして訂正します。

## 第3回春季公演開催

## 巧みな演技を披露する



「クラブ」を使った演技をするメンバー

に似た「クラブ」を使った演技のほか、バルーンアートなどが披露され、会場に集まった約70人の観客を沸かせた。

クラブを使った演技では、数人でテンポよく15本のクラブをパスし合い観客を魅了した。さらにクラブをパスしている2人組の間に1人が入り、片側から投げられたクラブをつかみ反対側に手渡しする大技も見せた。

またバルーンアートの演技では、細長い風船を膨らませて数カ所ねじっただけで、アードルの形をした作品を作り上げて観客を驚かせた。演技の最後には同様に「ミッキーマウス」を作り、子どもたちから大きな拍手が送られた。

来場した女子学生は「演

目ごとに世界観があり、とても楽しかったと語った。Sheep代表の菅原一景さん(社会学類3年)は「大

(山野辺拓実、写真も)

## 第13回フォルクロレ

## 14グループが演奏

筑波大学フォルクロレサークル南が主催する第13回フォルクロレコンサートが6月7日、アルスホール(つくば市吾妻)で開かれた。フォルクロレは南米の民族音楽で、今回のコンサートにはフォルクロレサークル南だけでなく、筑波大学フォルクロレ愛好会や両サークルのOB・OGらが結成したバンドなど、14グループが演奏した。最初に「コンドルは飛んでいく」が演奏され、来場

た。「主流」へのひがみやマイノリティとしてのプライドといった自意識の問題ではない。「境界」と「周縁」にこそ興味深いフロンティアがあると

この関心ゆえに私には、さまざまな副業に手を出してしまうという悪い癖がある。本業としての診療と研究の傍ら、請われるままに書評や映画評を書き、現代思想やアートといった専門外の領域の論文を手がけ、ロボットの工学やメディア論の専門家らと対話を重ねてきた。はた目には無節操に映るであろうこうした活動の一切もまた、私の

だろうか。

と「支援」の区別のあいまい化、「コミュニケーションの前景化」、「個人の不適応」と「社会的排除」を両立させる複眼的視点の要請、などなど。

私が所属する研究室では、このほかにも「依存症」「児童虐待」「DV」「自傷・自殺」などの問題を

## 「別の人生」への強い関心

## 「ひきこもり」問題を支援

取り扱っている。いずれも従来の精神医療においては主流から外れた周縁的なテーマとみなされてきた。しかしいまや、これらの専門領域に対する社会的なニーズは、かつてないほどに高まっている。

ならば私自身は、なぜこの仕事を専門としたの

こもりの資質はあったのだ。私がひきこもり問題を専門としている理由の一つは、間違いない、自分にとって「ありえたかもしれない別の人生」への強い関心がある。

この自覚と関連して、私には常に、自身が「境界人」であり「周縁人」であるという意識があっ

今「を」形作ってきたことは間違いない。

そうした活動の集大成として、今私は「オーブ・ン・ダイアログ」の研究に取り組んでいる。フィランドで統合失調症治療に高い成績を上げたコミュニティケアの技法だ。西ラップランドという僻地の技法というだけでわくわくしてしまうのだから、やはり私は生涯「境界人」であり「周縁人」であるほかはないのだろう。

さいとう・たまき

医学医療系 教授、筑波大学大学院修士課程2013年から現職。著書に「社会的引きこもり―終わらない思春期(PHP新書)」「ヤンキー化する日本」(KADOKAWA)ほか多数。



斎藤環

私の専門は社会精神保健学である。昨年4月に本学に赴任するまでは精神科勤務医として、およそ四半世紀あまり、いわゆる「ひきこもり」問題の支援と啓蒙活動に関わってきた。

ひきこもりの存在には、現在の精神医療におけるさまざまな問題が集約されている。精神疾患の軽微化と社会問題化、「医療」と「福祉」「治療

314号5面の「交差する表現」構成専攻の現在の記事で、國安孝昌教授芸術系の作品名を「森の竜神」と記載しましたが、正しくは「筑波嶺の竜神」でした。おわびして訂正します。







# 第40回宿舍祭 熱気にあふれた2日間



## 今年の火文字は「結」

### 前夜祭

30日午後4時から前夜祭が行われ、野外ライブや縁日が、祭の始まりをにぎやかに彩った。

午後9時からは、平砂共用棟前で前夜祭のメインイベント「火文字」が行われた。今年は初の試みとして、曲に合わせてたいまつを振るなど火を使ったパフォーマンスが披露され、最後に今年の漢字「結」の火文字の写真を撮、添島香苗撮影が浮き上がり、会場は最高潮に達した。

炎天下の中で熱唱

午後0時30分からメインステージで歌のうまさを競う「やどカラ2014」が行われた。予選を勝ち抜いた5人と昨年の優勝者が出場し、1000人を超える観客の前でJ-POPをはじめ、映画の挿入歌などを披露。会場は声援や手拍子で大いに盛り上がった。



コブクロの「赤い糸」を歌う新巻さん＝加藤陽子撮影

### やどカラ

炎天下の中で熱唱

午後0時30分からメインステージで歌のうまさを競う「やどカラ2014」が行われた。予選を勝ち抜いた5人と昨年の優勝者が出場し、1000人を超える観客の前でJ-POPをはじめ、映画の挿入歌などを披露。会場は声援や手拍子で大いに盛り上がった。

第40回宿舍祭(やどかり祭)が5月30-31日に平砂学生宿舎周辺で行われた。当日は真夏日で、会場も熱気にあふれた。大盛況となった本祭の各イベントを本紙記者が取材した。(森レイ、油布知夏、人文学類、井口彩、大西美雨、小野恵司、関根岳、新田萌夏、林健太郎、森脇慎、山野辺拓実、社会学類、加藤陽子、国際総合学類、田中開、教育学類、添島香苗、生物学類、齋藤優斗、社会学類、佐々木優、知識情報・図書館学類、岩根美樹、芸術専門学類)

### 漢祭り

#### 面白さを競う

午後4時50分から、メインステージで「漢祭り2014」が行われた。

「漢祭り」は、出場者が3つの「お題」ごとにパフォーマンスを行い、その合計から学内で最も面白い「漢」を決める企画。3チーム9人の出場者は、司会者が出すテーマにどれだけ面白く答えられるかを競う「大喜利」や、一発芸を披露する「漢のネタ合戦」などで自分の面白さをアピールした。

最終企画「ガチンコ相撲」の結果、優勝は昨年も出場

### 福男

#### 全力で250m疾走

午後5時50分から、やどかり祭40周年記念企画「福男」が行われ、野外ライブや縁日が、祭の始まりをにぎやかに彩った。

午後9時からは、平砂共用棟前で前夜祭のメインイベント「火文字」が行われた。今年は初の試みとして、曲に合わせてたいまつを振るなど火を使ったパフォーマンスが披露され、最後に今年の漢字「結」の火文字の写真を撮、添島香苗撮影が浮き上がり、会場は最高潮に達した。



1番でゴールする渡辺さん＝井口彩撮影



会場を沸かせる出場者たち＝新田萌夏撮影

### ゆかたコンテスト

#### ゆかたコンテスト

午後7時過ぎ、宿舎祭のフィナーレを飾る「ゆかたコンテスト」がメインステージで開催された。今年から、学群だけでなく、学類からの参加もできるようになり、9団体が出場。各団体が選ばれた浴衣の似合う学生「ゆかたコンテスト」で、その魅力を引き立たせるパフォーマンスが披露された。

## 浴衣美人が夜を彩る

グランプリは国際総合学類の寺島紗也さん(国総1年)。準



上：息の合ったダンスを披露する国際総合学類、右：ソーラン節を踊る田中さん  
左下：個性派賞を獲得した松本さんら医学群のダンス、山野辺拓実ら撮影



## 個性的な神輿を披露

午後4時からパフォーマンス会場、御輿と劇やダンスなどのパフォーマンスが披露され、学群・学類などから9団体が参加した。各団体は、各学群・学類の専門分野を分かりやすく紹介したものやアニメのキャラクターをモチーフにしたものなど個性的な御輿を制作した。

参加者は御輿を担いで平砂共用棟前を出発。パフォーマンス会場に到着すると、劇やダンスを披露した。会場は大いに盛り上がった。



優勝した芸術専門学群の御輿＝関根岳撮影

### 御輿

#### 御輿

が終わると宿舍祭のWebサイトで投票が行われ、骸骨をかたどった完成度の高い御輿を制作した芸術専門学群が優勝した。準優勝はスウィングスとピラミッドの御輿を作った国際総合学類、御輿賞は和食をテーマにお節料理をかたどった御輿で観客を魅了した生物資源学類だった。パフォーマンス賞は、劇でレポート提出直前の鬼気迫る状況をコミカルに表現した情報学群だった。

また、御輿を通して若者に日本の伝統文化に興味を持ってもらおうと、平塚万里奈さん(国総1年)が企画した「有志! 神輿大好き人」が参加し、留学生を含めた約30人が練り歩いた。











第 26 回全国大学弓道選抜大会

今林 4 射皆中決める

決勝トーナメント進出ならず



冷静に的を狙う今林（右）と齋藤

【明治神宮（東京都渋谷区）で新田萌夏Ⅱ社会学類 2 年、写真も】団体戦大学日本一を決める第 26 回全国大学弓道選抜大会が 6 月 28―29 日に行われ、女子の部で菅谷円美（体専 2 年、齋藤詩乃（同 1 年）、今林史佳（同 2 年）のチームが出場した。今林は 4 射全てを的中させる「皆中」を決めたが、3 人で計 12 射 7 中で惜しくも予選敗退となった。

弓道

予選トーナメントでは中央大、西南学院大と競射。水色の上着に身を包んだ筑波大は、冷静さを欠くことなく集中し

記者の目

大会で見たのは弓道の格式の高さと礼儀を重んじる文化だった。伝統のつとめ、表情一つ変えず淡々と矢を放つ選手たち。筑波大は惜しくも予選を突破しなかったが、今後もその冷静さを生かした演技に注目したい。

大会は開幕の儀式である「矢渡し」で幕を開けた。道場の責任者らが実際に弓を引き、的や道場に仕掛けなどが無いことを示すもので、勝負の公平さを証明するといわれている。そこでは矢を射るまでの順序と作法が厳格に決められており、矢を必ず的中させなければならない。矢渡しの間は誰もが息をのみ、儀式の様子を見守っていた。

矢渡しの後の女子予選でも弓道の

伝統的武道の神髄感じた

「文化」に至る所を感じた。特に目を引いたのは今林史佳（体専 2 年）の演技。冷静な表情を崩さない今林の演技は、伝統のつとめものだった。一つひとつの動作は丁寧そのもので、身体の末端にまで神経を行き渡らせているようだった。今林は皆中させたが、「ほんの少しの精神面の揺らぎで結果が変わる」と精神力の重みを語った。

一本の矢に神経を集中させ、28 歳先の的を狙う弓道は、ほかのスポーツと異なり、激しく体を動かすことはない。だが今林によると、その醍醐味は常に冷静さを求められることだ。一射一射に心を込めるその奥ゆかしさに、日本の伝統的武道の神髄を感じた。

（新田萌夏）



強烈なアタックを決める筑波大

女子が嘉悦大破り 3 位

全日本インカレ出場権獲得



バレー

【墨田区総合体育館（東京都墨田区）で林健太郎Ⅱ社会学類 2 年、写真も】バレーボール全日本インカレが行われ、女子バレー部が 3

位に入賞。12 月の全日本インカレへの出場権を獲得した。女子は 2 回戦以降、大妻女子大に 3―0、金城大に 3―0、東北福祉大に 3―0 で勝利。準決勝で日本体育大に 1―3 で敗れたが、3 位決定戦では嘉悦大に 3―0 で快勝した。

嘉悦大との 3 位決定戦は、試合前に塚田しおり（体専 2 年）が「サーブで相手を崩し、自分たちの高さを生かしたバレーをしたい」と話した通りの試合展開になった。サーブが序盤からうまく決まり、25―23 で第 1 セットを先取。続く第 2 セット、第 3 セットは高さを生かしたアタックで圧倒しストレート勝った。

前半戦終え最下位

初の 2 部降格も



サッカー

4 月から行われている第 88 回関東大学サッカーリーグ戦が前半戦を終えた。筑波大は 1 勝 8 敗 2 引き分けの勝ち点 5 で最下位に沈み、創部以来初となる 2 部降格の危機に瀕している。

10 試合戦って未勝利だった筑波大は、前半最終戦（6 月 14 日）で流通経済大と対戦。1―0 で接戦を制し、今季初勝利を挙げた。

試合の序盤は互いにチャンスを作り、一進一退の展開となったが、前半 33 分に主将の片岡爽（体専 4 年）

第 93 回関東学生陸上競技対校選手権大会

女子 22 年連続の総合優勝

男子順位落とし総合 5 位



陸上

第 93 回関東学生陸上競技対校選手権大会（関東インカレ）が 5 月 16―25 日に熊谷スポーツ文化公園陸上競技場（埼玉県熊谷市）などで開催された。女子は 22 年連続総合優勝を果たし、男子は惜しくも総合 5 位だった。

女子は、勝山眸美（体専 2 年）がハンマー投げで 60 歳 56 の関東学生新記録を打ち立て、中村真悠子（体育 2 年）も 3000 以障害 2 部で 10 分 6 秒 52 の大会新記録を出し優勝した。ほかにも知念莉子（体専 3 年）が円盤投げで、松原恵（同 2 年）が七種競技でそれぞれ優勝するなど各選手が好成績を収め、22 年連続 24 回優秀選手として神谷快（体育 2 年）が選出された。

男子が 3 位入賞

優秀選手に神谷



柔道

団体戦で争う全日本学生柔道優勝大会が 6 月 28―29 日に日本武道館（東京都千代田区）で行われ、筑波大は男子で 3 位に入賞。女子は 2 回戦で敗退した。また、優秀選手として神谷快（体育 2 年）が選出された。

7 人一組で行われた男子は、8 月の世界選手権（ロシア・チェレピンスク）代表の永瀬貴規（同 3 年）や黒岩貴信（同 3 年）らの活躍で 4 回戦まで順調に勝ち進んだ。

準決勝の日本大戦では神谷が黒本正弘（日本大 4 年）に勝利したが、永瀬が安達裕助（日本大 2 年）と引き分け、ほか 2 人も引き分けた。黒岩も指導を 4 回受け敗北。残り 2 人も惜敗して 1―3 で敗退した。

5 人一組で行われた女子は、1 回戦では九州看護福祉大に 4―0 で圧倒したが、2 回戦の環太平洋大には 1―2 で敗北。課題の残る結果となった。

（新田萌夏）

第 3 回関東大学春季大会

3 勝 2 敗で 3 位

東海大に敗れる



ラグビー

A・B・C 3 グループに分かれグループ内の総当た

は相手を上回る試合が続いていた。後半戦は結果にこだわっていききたい」と語った。（森協慎）

（5 月、ベトナム）で初優勝した「なでしこジャパン」の猶本光（体専 3 年）が 6 月 13 日、永田泰介学長を表敬訪問し、優勝を報告した。

猶本は現在、なでしこリーグの「浦和レッズ」レディースに所属。高速バ

を 14―26 で折り返した。後半、逆転を狙う筑波大だったが東海大のタックルに対してボールをこぼすミスが目立った。トライを決めることができず、逆に 4 分、20 分、38 分とトライを許し 14―47 で敗れた。トライを決めた竹中は「今大会の反省点を生かし、全員で成長したい」と語った。（富田慎二）

なかった。榎本靖士・中長距離コーチ（体育系・准教授は「限られた人数で結果を出せてうれしい。秋の日本インカレや駅伝大会に向けて今後も練習を重ねていきたい」と語った。

第 98 回日本陸上競技選手権大会 女子 3000 以障害 中村が学生新記録 第 98 回日本陸上競技選手権大会が 6 月 6―8 日にとろほう・みんなのスタジアム（福島県福島市）で行われ、3000 以障害で中村真悠子（体育 2 年）が関東インカレの記録を大きく上回る 9 分 53 秒 87 で日本学生新記録を更新し、2 位に受賞した。

中村は「目標を達成でき自信がついた」と喜びを語った。（井口彩）



躍進続く男子バスケットボール部

27 年ぶり準優勝

10 年ぶり優勝

選手権  
新人戦

男子バスケットボール部の躍進が続いている。5 月 17 日から 6 月 1 日にかけて行われた第 63 回関東大学バスケットボール選手権大会では 27 年ぶりの準優勝。6 月 7 - 22 日に行われた第 54 回関東大学バスケットボール新人戦では 10 年ぶりの優勝を果たした。馬場雄大 (体専 1 年) など新人選手の活躍も目覚ましく、秋のリーグ戦の優勝も期待できそうだ。(平嶋健人 Ⅱ 社会学類 3 年・写真も。12 面に関連写真)



鋭いドリブルで切り込む満田 (選手権決勝の東海大戦で)

第 53 回 NHK 杯体操

井上が個人総合で 3 位

世界選手権代表に選出

体操



第 53 回 NHK 杯体操が 6 月 7 - 8 日に国立代々木競技場第一体育館 (東京都渋谷区) で行われ、井上和佳奈 (体専 1 年) が個人総合で 3 位に入賞。10 月の世界選手権 (中国・南寧) の代表に初選出された。最初の跳馬では、踏み切りが合わず、入りのロングを失敗。しかし、急きょ予定していた技を変更するなどの機転を利かせ、その後はミスを最小限に抑えた。続く段違い平行棒は、一つひとつ丁寧に技を決め、ますますの出来。平均台では交差リフ、抱え込み側面優勝した笹田夏実 (日本体育大 1 年)、2 位の寺本明

らの連続ポイントで一挙に 50 点を奪い、77 - 70 で「王者」に逆転勝ちした。東海大との決勝では第 1 ピリオドで先制。しかし第 2 ピリオドでは「ディフェンスがしっかりしていた」(馬場) という東海大から点を取りきれず、前半を 34 - 42 で折り返した。後半は坂東拓 (同 4 年) の 4 連続ポイントなどで一時同点に追いついたが、その後は東海大に何度もリバウンドを取られ 67 - 82 で敗れた。敢闘賞を受賞した笹田貴哉 (同 4 年) は「東海大は強かった。(筑波大の選手たちは) 負けず嫌いで、気負いすぎている」と語った。吉田健司監督 (体育系・准教授) は「失点を 60 点以内に抑える目標を達成できた。速効が決まらなかった時のオフエンスが課題なので、練習を重ねて秋の大会では優勝を目指す」と力強く語った。

第 1 ピリオドで馬場が先制点を取ると、5 分過ぎまでに 16 - 4 とリードし、流れをつかんだ。その後も「自分の好きなようにプレーができて楽しかった」と馬場が話す通り、選手に気負いはなく全員が躍動した。3 ポイントシュートが要所で決まるなど得点を重ね、69 - 57 で試合終了。10 年ぶりの優勝を決め、東海大に選手権の雪辱を果たした。馬場は新人賞、杉浦佑成 (同 1 年) と満田丈太郎 (同 2 年) は優秀選手賞を受賞した。

記者の目 ルーキーコンビの活躍光る

「今までの筑波の地味なイメージを覆された。何かが始まる予感がする」。大学バスケットを長年取材し続けてきたスポーツライター、清水広美さんを驚かせた躍進の理由は、高校時代から U-18 (18 歳以下) 日本代表として活躍していた馬場雄大 (体専 1 年) と杉浦佑成 (同 1 年) のルーキーコンビの加入だ。関東大学バスケットボール新人戦決勝では、2 人だけでチーム得点の半分近くの 33 点を奪取。関東大学バスケットボール選手権大会で最優秀選手に選ばれたバランス・ザック (東海大 4 年) も「馬場と杉浦が筑波大のキーマン。爆発力もあり、勢いに乗ると止められない」と賞賛した。新人戦では杉浦がコート脇からの難しいシュートを次々と決めたほか、馬場の速効攻撃が機能する場面も目立った。「一つひとつのプレーに集中して、相手の流れを止めることもできた」(馬場)。

新人戦では 2 年生の活躍も光った。満田丈太郎 (同 2 年) は勝負どころで連続ポイントを獲得するなどエースとして勝負強さを見せた。普段は出場機会に恵まれない生原秀将 (同 2 年) は司令塔として積極的な声を出が、期待されていた日本代表入りが、期待されていなかった。50 歳で背泳ぎでは、スター

トで深く潜りすぎ、浮き上がりに失敗。トップとの差を縮められず 28 秒 71 でフィニッシュした。「1 位は 35 歳のベテラン選手だったので勝てた試合だったと悔しさをにじませた。100 歳で背泳ぎは 80 秒地点まで上位 3 人が並ぶ接戦となった。しかし、諸貫は体力が持たずゴール間際で減速。1 分 1 秒 34 で 3 位になった。諸貫は「日本代表の夢がかなわず悔しいが、2 年後のリオデジャネイロ五輪に

引く張らなければならなかったことだ。自分の調子がチームの勝敗を左右する。『馬場がいなくて始まらない』という空気がチームにはあった。『注目され、期待に応えよう』と語った。貴哉 (体専 4 年) や村越圭佑 (同 3 年) をはじめ、日本代表の経験を持つ選手が多いチームだ。レベルの高い先輩や仲間と共に切磋琢磨できる。「中途半端な気持ちで練習に取り組まなくなった」。同期の杉浦佑成 (同 1 年) は馬場と共に U-18 日本代表チームで戦った実力の持ち主。「(杉浦は) 自分にとって仲間であり 1 番負けたくない相手。彼の存在が自分にとって非常に良い刺激になっている」という。

今後のチームの目標はインカレで優勝し、天皇杯で上位進出することだ。「自分はまだ体重が軽いので、がっしりした相手に体をぶつけられると倒されてしまう。筋力やパワーを強化したい」と話す。将来の夢は、バスケットボールの本場・アメリカでプロ選手になること。期待の新人は、これからの驚きのプレーで人々を魅了していくだろう。(井口彩 Ⅱ 社会学類 2 年・写真・平嶋健人 Ⅱ 社会学類 3 年)

女子 50 背 諸貫が 2 位

代表入り逃す

水泳競技



8 月の第 12 回パンパシフィック選手権 (オーストラリア・ゴールドコースト) などの代表選考会を兼ねたジャパンオープン 2014 (50 歳) が 6 月 19 - 22 日に

東京辰巳国際水泳場 (東京都江東区) で行われ、諸貫瑛美 (体専 4 年) が女子 50 歳で背泳ぎで 2 位、100 歳で背泳ぎで 3 位に輝いた。だが、期待されていた日本代表入りはならなかった。諸貫は「日本代表の夢がかなわず悔しいが、2 年後のリオデジャネイロ五輪に

向けてしっかりと努力していきたい」と気持ちを新たに誓った。(姉崎信)

◆オリエンテリング 平成 26 年度関東学生オリエンテリング選手権大会個人戦 (6 月 15 日、東京都青梅市他) 【男子】男子新人クラス▽河渡智史 (地球 1 年) 24 分 59 秒 Ⅱ 2 位 【女子】女子新人クラス▽増山春菜 (地球 1 年) 19 分 24 秒 Ⅱ 1 位

より高みを目指して



男子バスケ部のスーパールーキー 馬場雄大 (体専 1 年)

今年 6 月の第 54 回関東大学バスケットボール新人戦で、10 年ぶりに優勝した筑波大学男子バスケットボール部。その大会に 1 年生ながらスタメンで出場し、全 5 試合合計 62 得点を挙げて新人賞を獲得した。多くのメディアが「スーパールーキー」筑波大のバスケットボールを褒める」と評する期待の新人だ。194 センチの長身から繰り広げられるダイナミックなプレーが持ち味。ジャンプすれば指先は 3.5 メートルの高さまで届き、50 歳を 6.2 秒で走るといふ、優れた跳躍力とスピードが武器だ。吉田健司監督 (体育系・准教授) は「非常に将来性のある選手と大きく評価する。父・敏春さんは元日本高校でチームを一人で



代表のバスケットボール選手。父にあこがれ、小学校 3 年生からバスケットボールを始めた。父ゆずりの身体能力の高さを生かし、技術はどんどん上達。高校 1 年生の時に

1 部リーグ戦が全日程を終了し、筑波大学は 5 勝 9 敗 (勝率 0.357) で 6 位に終わった。リーグ優勝を目指しながらも、打撃陣の不調などで下位に沈んだ。9 月から行われる秋季リーグ戦に向けて、川村卓監督 (体育系・准教授) は機動力を重視したチームを作り、優勝を狙いたい」と話している。春季リーグ序盤から不調だった打撃について川村監督は「特に下位打線が打てなかった。リーグ戦のレベルに達していない」と語った。一方、投手陣は最速 152 キロの本格派右腕・木部拓実 (同 2 年) と制球力

の良い大間幹起 (同 3 年) という先発の軸となる 2 人がけがで出遅れたのが響いた。新人の大場遼太郎 (同 1 年) が代役として登板したが、最速 147 キロの速球を武器に力強い投球を見せる一方で、無駄な四球を出すなど不安定な投球も目立った。川村監督は「下級生が多く、個人のレベルアップが必要。選手たちが自分で考え、行動できるチームを作っていきたい」と語った。(鈴木拓也)

首都大学野球春季 1 部リーグ戦

打撃陣不調で 6 位 秋は機動力重視へ

野球

8 チームが 2 回戦総当たりで戦う首都大学野球春季

1 部リーグ戦が全日程を終了し、筑波大学は 5 勝 9 敗 (勝率 0.357) で 6 位に終わった。リーグ優勝を目指しながらも、打撃陣の不調などで下位に沈んだ。9 月から行われる秋季リーグ戦に向けて、川村卓監督 (体育系・准教授) は機動力を重視したチームを作り、優勝を狙いたい」と話している。春季リーグ序盤から不調だった打撃について川村監督は「特に下位打線が打てなかった。リーグ戦のレベルに達していない」と語った。一方、投手陣は最速 152 キロの本格派右腕・木部拓実 (同 2 年) と制球力

の良い大間幹起 (同 3 年) という先発の軸となる 2 人がけがで出遅れたのが響いた。新人の大場遼太郎 (同 1 年) が代役として登板したが、最速 147 キロの速球を武器に力強い投球を見せる一方で、無駄な四球を出すなど不安定な投球も目立った。川村監督は「下級生が多く、個人のレベルアップが必要。選手たちが自分で考え、行動できるチームを作っていきたい」と語った。(鈴木拓也)





序盤から快走するサイクリング部（左）

家庭用自転車「ママチャリ」をチーム2〜10人で交代しながら8時間（ぎ続）を1チーム2〜10人で

## サイクリング部 変速クラスで優勝 総合でも2位に

ママチャリ8時間耐久レース大会

1回袖ヶ浦ママチャリ8時間耐久レース大会が、6月1日、袖ヶ浦フォレストレースウェイ（千葉県袖ヶ浦市）で行われた。筑波大学からはサイクリング部が出場し、変速クラスで優勝、総合でも2位に入賞した。同大会は約2・4キロのコースをチームで交代しながら無改造のママチャリで約8時間走り続け、その周回数などで順位が決まる。ギアを変えられる変速クラスと、ギアを変えられないシングルクラスが行われ、

「当時、今、これから—3・11から考える」  
被災地の経営者が講演  
住民の視点から現状語る

「3・11から考える」が6月5日、3A棟202教室で行われた。福島県南相馬市で復興支援事業を行う星巖さんと佐藤喜彦さんが震災当日の様子や自身の復興に向けた活動について講演し、会場には筑波大生を中心に約30人が訪れた。同市内で民宿を経営する星さんは「被災地は震災以前の生活を取り戻しつつあるが、支援物資への感謝の気持ちが薄れていたり、震災で失業した人の中にいまだに動こうとしない人がいるのが残念だ」と、地域住民の視点から被災地の現状を語った。また佐藤さんは「震災から3年たって、つらい体験も少しずつ話せるようになった」と語った。

また講演会の後半では、「みにぶろ」代表の山下史雅さん（比文2年）が参加者のアンケートをもとに、インとインフラを整え、当



講演者と対談する山下さん（左）

比較文化学類が主催する「比文カフェ」が6月11日、1D棟201教室で行われた。精神科医の斎藤環教授（医学医療系）をゲストに迎えて、五十嵐沙千子准教授（人文学部）が聞き手となり、会場には学生など約90

## 斎藤環教授を招く 精神治療法の紹介も

比文カフェ

と、多くの参加者が挙手する場面もあり、講演者と参加者がお互いのことを知る機会となった。（赤島香苗写真も。12面に山下さんの「Who's Who?」）

また斎藤教授は、精神治療で使われる「オープンダイアログ」という、心の病を持った患者と、医師が対等な会話をして治療を行うという、薬物に頼らない治療法を紹介。「対話の内容や結論よりも、対等な人間として向き合っていることが、人間の精神を豊かにする」と語った。（廣岡里穂、3面に斎藤教授の「原点」）

## 「つくさか地域食育支援プロジェクト」 小中学生に野菜の育て方を指導

デザイン＝姉崎信（心理学類2年）

社会貢献  
プロジェクト  
10周年

## 附属坂戸高が活動

「このトマト、私たちが育てているトマトと形が違うよ」。7月初旬の昼下がりに、筑波大学附属坂戸高校（埼玉県坂戸市）にある農業科の農場（約2・4ヘクタール）に約10万人の学5年生〜100人が歓声を上げながら歩き回る。坂戸高校では4年前から「つくさか地域食育支援プロジェクト」として、市内の小中学生を対象にさまざまな活動を行っている。そして同プロジェクトは3年前から「筑波大学社会貢献プロジェクト」にも採択された。企画は多岐にわたる。今



オクラの様子を観察する小学生

材の提供が追いついていないので、青ナスやブロッコリーなど地域性のある品目を中心に増産する」と黒岩健一先生（坂戸高校実習助手）は今後の抱負を語る。農場の散策後、質疑応答の時間。一人の男の子が元気に手を挙げた。「おいしい野菜はどうしたら作れますか」。真剣な表情で尋ねるその子に、黒岩先生は笑顔で答える。「野菜は一時期でも間違った育て方をすると、元気に育たない。野菜の健康管理をしっかり行っているためには何よりも野菜の気持ちになることが大事だよ（油布知夏II人文学類2年、写真も）」

## モスクワで日本語教育

モスクワ市立教育大学では、日本語学部や、大学と提携する学校などで日本語の先生としてロシア人の学生、生徒さんに日本語を教える機会が広がっています。また、大学でロシア語の授業も受講し、とても充実した日々を送らせていただいています。

モスクワ市立教育大学（ロシア）  
山崎雄貴  
皆さんこんにちは。ロシアのモスクワに去年の9月から留学中の、日本語・日本文学類の山崎雄貴です。



ロシアで友人たちと（中央が山崎さん）

いるかもしれません。日本とロシアは隣国ですが、それにも関わらず日本人の多くはロシアについてあまり知らないように思います。かくいう私もそうでした。私が今留学しているモスクワは、およそ

日本語で日本語を教える「直接法」という方法で教えています。日本から7500キロ離れたこのモスクワで日本語を教えるにあたって、もちろん苦労も多くあります。多くの学生は、日本について興味を持っていますが、いかにせんロシア人向けの教科書は少なく、非常に間違いの多い辞書や教科書なども残念ながらまだに多いのが現状です。そんな環境での授業で戸惑うこともありすが、自分の限界に挑戦するという意味で非常にいい経験させていただいていると感じています。もし、この記事を読んでモスクワに、そしてロシアに興味を持った人は、ぜひ一度足を運んでみて下さい。

それでは、До свидания！（さようなら！）（日本語・日本文学類4年）







## Who's Who?

「みにぷろ - 見に行こう、そして考えよう東北プロジェクト -」代表

## 山下史雅さん (比文2年)



芝生でほほ笑む山下さん

2011年3月に東日本大震災が発生して3年。福島第一原発事故による放射能の危険性などを報道で耳にし、「被災地は危険な場所だ」というイメージを抱いてしまっているのではない

か。そんな被災地へのイメージを変えるべく活動している団体が「みにぷろ - 見に行こう、そして考えよう東北プロジェクト -」だ。「みにぷろ」はがれき撤去や建物の

修繕を手伝うようなボランティア団体ではない。被災地で人々に復興の進み具合や生活の様子などを聞き、筑波大学での展示や発表会などを通じて被災地の現状を報告する団体だ。

今年1月に同団体を立ち上げた山下史雅さん(比文2年)は「私たちが被災地の様子を發表すること」で、より多くの人に現地の様子を知らしてほしいと語る。そのため、「みにぷろ」では多くの人が気軽に参加できるように「正式メンバー」を決めず「フォロワー」という形で自由に活動に参加してもらっている。1回限りの参加も歓迎だ。

行動のきっかけは、昨年11月の学園祭で行われた作家、思想家の東浩紀氏の、福島第一原発の現状についての講演。講演で東氏は、「福島第一原発事故に揺れる福島県に多くの人が訪れ、事故の記憶を風化させないようにしたい」と語った。斬新な視点で、山下さんは心惹かれた。

「被災地の現状を知らない自分のよ

「被災地」のイメージを変える  
深まる故郷への愛着

うな。大学生ができることは、まず第一に被災地を「知る」ことなのではないか。

そう考えた自分にも何かできる気がして、「みにぷろ」を立ち上げた。

3月、初の「みにぷろ」の活動として福島県南相馬市を一泊二日で訪れた。参加者は11人。津波被害を受けた沿岸部や、市内の仮設商店街を見て回り、仮設商店の店主や仮設住宅に避難した人、また宿泊した民宿のオーナーなどと話をした。その結果、「全国から被災地を訪れた人々の温かい言葉が、復興を後押しする」と感じた。

そして訪れた被災地の様子や現地の人々との交流を多くの人に伝えるために、3月下旬に筑波大学中央図書館で「みにぷろ」の活動内容や、被災地で撮った写真などを展示。多くの人に被災地の様子を伝えた。また、これとは別に、4月には17人で福島県いわき市を訪問し、市内の仮設住宅などを見て回った。

山下さんは2回の訪問を「現地の人は皆明るく、私たちのほうが元気をもらえた」と振り返る。今後は被災地を訪れる機会を増やす予定だ。

「みにぷろ」の活動で故郷に対する思いが深まったと話す。被災地の人々が、失った故郷を取り戻すため、復興に全力を注ぐ姿を見て、故郷と人々の強い絆を感じたからだ。出身は愛知県。自分の故郷がもし災害に遭った時、自分は何ができるのだろう。答えはまだ見つからないが、考えるほどに故郷への愛着が深まった。

そんな山下さんにとって「つくば」は第二の故郷だ。つくばで多くの人と関わる中で、つくばを故郷として感じるようになったという。

「これからつくばを『みにぷろ』で色々な人と関わりたい」

その思いを胸に、第二の故郷から未来を見据える。

(新田明夏II社会学類2年、写真も)

## 編集後記

先日、東京都写真美術館で開催中の「世界報道写真展」を訪れる機会がありました。昨年撮影された世界各国的報道写真の中から、えりすりの作品を展示する展覧会です。▼「百聞は一見にしかず」とは言いますが、絵画と違って、カメラが切り取る「場面」は「現実」そのもの。紛争や自然災害、社会問題を扱った写真の一枚一枚に引きつけられ、被写体について深く考えさせ

次号は

10月6日(月)

発行予定です

## 第71回吹奏楽団定期演奏会



真剣な面持ちで音色を奏でる演奏者 = 原啓一郎撮影

3面へ

## 第13回フォルクローレコンサート



情熱的な演奏をする団員 = 森レイ撮影

3面へ

## 関東大学バスケットボール新人戦



決勝でシュートを決める馬場 = 井口彩撮影

9面へ

## リレー・フォー・ライフ



横断幕を掲げて行進する参加者 = 原啓一郎撮影

11面へ

学芸

学芸

スポーツ

学生生活